

〈特集のしるし〉

『日華文化交流史』とその時代

*The History of Japan-Sino Cultural Exchange and its Time*

若松 大祐

WAKAMATSU Daisuke

このたび『常葉大学外国語学部紀要』三七号において『日華文化交流史』とその時代」と題する特集を組み、二つの論文を載せる。本特集は、二〇一七年度から始まった常葉大学学内共同研究『日華文化交流史』とその時代・木宮泰彦の研究成果を常葉大学の授業で活用する試み」（代表者：若松大祐）の成果の一部である。実は、昨年度の『常葉大学外国語学部紀要』三六号で特集を組みたかったものの、準備不足のために次の二つの論文を先行して発表した。なお、濱川栄論文の末尾に「付記」があり、そこで二論文を発表するに至った経緯を記している。

濱川栄「『日華文化交流史』に見る歴史学者・木宮泰彦の姿―『日華文化交流史』とその時代（一）―」、『常葉大学外国語学部紀要』三六号、二〇一九年三月、一一―一九頁。

木宮敬信「『日華文化交流史』に見る元・明・清と日本との交易について―『日華文化交流史』とその時代（二）―」、『常葉大学外国語学部紀要』三六号、二〇一九年三月、二一―二九頁。

したがって、読者の方々には今号の本特集の二論文と併せてご覧いただきたい。

そもそも学内共同研究『日華文化交流史』とその時代」は、木宮泰彦の研究成果を検証することを目的とする。これまで、木宮泰彦は教育者としての側面ばかりが評価されてきた傾向にある。そこで、我々は彼の研究者としての側面に注目するのである。

我々の共同研究は、彼の代表的著作である『日華文化交流史』を繙くところから始めた。メンバー全員がまずは同書の各篇章の概要をそれぞれ作成して読み合わせた。加えて二〇一八年七月一七日（火）に常葉大学草薙キャンパスで、学外の尤淑君が中国語訳の状況を明瞭に解説した。尤淑君論文は中国語で執筆されているため、このたび岡崎滋樹が日本語に訳出して今号の本特集に収録した。

なお、二〇一七年度以来の共同研究の成果については、近く一冊の報告書『おもしろい木宮泰彦初稿』（仮）にまとめて発表する予定である。ここでは『日華文化交流史』のみならず、『日本古印刷文化史』や「日本震災史概説」などの木宮泰彦の論著について解説する。それは我々の共同研究が実施した読書会、講演会、座談会での議論、およびフィールドワークを踏まえたものである。また、学内の学生に向けた教材や一般に向けたポスターも収録することになろう。

振り返れば、本学創立者の木宮泰彦は対外関係史や日中関係史の専門家である。このたびの特集はいずれも日中関係史に関する内容を扱う。まさに外国語学部の学術研究の成果と呼ぶにふさわしい。

